



MMWIN[®]みんなのみやぎネット[®]

より効率的で、質の高い医療・介護サービス提供のために
Vol. 85

宮城県の「抗体カクテル療法」専門に行うセンター運用にも MMWINが活用されています。

宮城県の新型コロナウイルス感染症対策として、宿泊施設、医療機関、及び医療調整本部、それぞれの施設に必要な患者情報を正確に把握する為にMMWINが活用されています。

今年9月6日に運用を開始した、「抗体カクテル療法」を行うセンターの運用開始に際しても、センターと東北大学病院とのインフラ構築にMMWINが活用されました。

この施設を運営する東北大学病院 副病院長 石岡千加史先生にお話を伺いました。



石岡 千加史 先生

～抗体カクテル療法スタートするまでの経緯をお聞かせください～

治療薬は中外製薬の「ロナプリーブ」という薬を使うのですが、その薬が厚生労働省より特例承認を受けたのが7月19日でした。ちょうどその頃から、感染の第5波の勢いがすごくなってきた時期でしたので、富永病院長の判断でカクテル療法実施に向けて動くことになりました。

実際運用が開始されたのが9月6日ですから、結果的にすぐに運用開始できたとは言えないかもしれませんが、まずはカクテル療法に使われる薬がどの位の効果があるのかという勉強をしなければなりませんでしたが、治療を行う施設をどこにするのか、職員の体制をどうするかなど様々な調整も必要でした。

当初、カクテル療法を実施できるのは医療機関に限定されていたのですが、特例で厚生労働省より医療機関以外の施設でも実施可能になったのを受け、病院内での治療ではなく、すでに運用開始していて且つシステムの構築が出来上がっているコロナ療養ホテルで行うことに決定しました。

カクテル療法センター運用に至るまでに、他県と比べても宮城県側の対応は素晴らしかったです。災害時にはどのように動くべきかを熟知されており、震災の経験が活かされていたのだと思います。

～抗体カクテル療法とは具体的にどのように行われていたのですか、また成果はありましたか～

酸素投与が必要ない軽症者の中で重症化リスクが高い、例えば肥満とか基礎疾患がある方、肺疾患、自己免疫疾患がある方など、対象となる患者さんに医師から治療の説明をし、同意を得られた方に治療(点滴)を受けてもらいました。

実際カクテル療法を行ったのは100人に満たない数で、その中で入院が必要になる中等症2になったのは2人くらいでした。医学的には100人以下の数で成果を判断するのは難しいですが、カクテル療法をやらなかった場合20～30人ほどが中等症2に悪化してしまうのと比較すると、効果はあったのではないかと手ごたえは感じています。

～今後またコロナ拡大が起きた場合は～

カクテル療法センターを開設してから急速に患者さんが減少したので現在は閉所していますが、次の第6波に備えてすぐに再開できるよう設備はそのまま残しています。

運用の手順も確立しており、患者情報を共有できるネットワーク(MMWIN)の構築もすでに病院との間で出来上がっているのです、ハード面ではすぐに運用開始できるのですが、スタッフ(医師、看護師、薬剤師)確保にはどうしても4～5日は必要になってしまいます。

しかし、これまでコロナ感染症対策を一緒に進めてきた宮城県との強い連携体制をこれからも継続し、今後の感染拡大には対応したいと思っています。

お問合せ先：

一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

Miyagi Medical and Welfare Information Network (MMWIN)

【住所】仙台市青葉区一番町1-15-19 【WEB】<http://www.mmwin.or.jp>

【TEL】022-395-6312 【FAX】022-395-6313 【E-mail】office@mmwin.or.jp



『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。